
とある孤独な白い悪魔

ミケ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある孤独な白い悪魔

【Nコード】

N0400V

【作者名】

ミケ

【あらすじ】

一人称で一方通行の心境を書いてみました。

少し短いと思います。

駄文ですが読んでもらえたら有り難いです。

（前書き）

絶対能力進化実験の頃の一方通行です。

小さい頃からずっと孤独だった。

周りからは、「化け物」と言われ続け避けられてきた。

けど、本当は誰かに知ってほしかった。

ずっと友達が欲しかった。

いい加減、一人はツライ。

「助けて」と本当は大声で助けを求めたい。

アイツらが自分の利益しか考えてない事な^ンてわかっていた。

だけど断ろうとしなかった。

自分の生きている価値が分からなかったから。

だから毎日が実験の日々だった。

ずっと平気な顔をしていたけど、本当は怯える毎日だった。

心が恐怖で埋め尽くされそうだった。

口に出すのが怖かった。

また何か言われそうだったから。

誰も見たくない、何も話したくもない。

こんなにも腐っていてふざけた世界だから。

しょうがないし、どうしようもない。

けど本当はそうじゃない事ぐらい分かってる。

そんなんじゃないけない事ぐらい知ってる。

でも、もうこれ以上誰かを傷つけるくらいなら誰も知らなくていい、
かわりたくもない。

だから俺にかまわないでくれ。

誰か気づいてくれよこの気持ちに。

（後書き）

いやゝ、暴走してしまいました（＾―＾；）

こんな感じのが書いてみたいなゝと思っていたら止まらなくなってしまいました。

こんな駄文を最後まで読んで下さった方には感謝ですゝ（――）ゝ

感想なんか頂けたら嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0400v/>

とある孤独な白い悪魔

2011年10月8日20時05分発行